



はとの子だより

No.9 令和6年12月24日(火)発行

学校教育目標 自律 のびのび きびきび わくわく

今年最後のことだまから～2学期終業式～

底冷えするアリーナに全身防寒着で身を包んだ全校児童が集い、2学期の終業式を行いました。この年の瀬は特に雪が多く、グラウンドで楽しそうに雪だるまづくりや雪合戦に興じる子どもたちの声がこだました冬でした。それは、終業式を迎えた今朝のグラウンドでも同様でしたが、アリーナに全校児童が集うと一転、2学期の振り返りと冬休みの目標を発表する代表児童の言葉に耳を傾け、聞き入る姿が印象に残りました。1時間ほど前からジェットヒーターを炊いていたのですが、その音が聞こえるほど館内が静まりかえっていました。

実はここしばらく、子どもたちが落ち着いて話を聞けないことが気になっていました。では、なぜ今日はじっくりと話を聞ける姿を見ることができたのか。それは、大きな学校行事や研究行事を乗り越えて、充実した2学期を送った子どもたちの生の言葉が、多くの子どもたちの心に響いたからではなかったかと振り返っているところです。



1年生の高橋慶さんは、2学期に授業で頑張ったことを二つ挙げました。一つは「みんなに聞こえるように大きな声で発表すること」、もう一つは「友達の話を中心して聞くこと」でした。特に二つ目については、「話を集中して聞くと、友達が考えていることや頑張っていることがよく分かりました」とその効果を話していました。また、学習発表会では、「おむすびころりん」のおじいさん役を「おじいさんになりきって、ゆっくり言ったり動いたりするのを工夫」したのだ

そうです。「聞く」ことや「演じる」ことが、他者の心に寄り添い、自分の心を耕すことにつながるのだと実感させてくれました。

3年生の稲葉琉己さんは、「時間を意識して生活すること」を頑張ったそうです。特に今学期は、「友達と協力しながら時間を意識するように」したとのこと。このことを通して「クラスの意識を高められる一つのパズルのピースのようにみんなを支えることができる存在になりたい」と考えるようになったのだと話していました。自分一人だけの努力目標であってもおかしくないところですが、それをクラス全体に波及させることに重きを置いているところに、3年生としての成長が感じられました。



5年生の藤澤真央さんは、「ドラえもんから学んだこと」として、「本当の優しさという



ものは自分のことを優先するのではなく、助けたいと心から思える気持ちのことで、決して周りからほめられることを望んでやるのではない」「それが本当の心の強さだということ」をドラえもんのあるエピソードを交えて教えてくれました。感心したのは、「本当の優しさをすぐ実行することができるかは分かりませんが」と正直に自分の心の内を打ち明けてくれたことです。それでも、「普段から自分のできることを積み木のように一つずつ積み重ねていながらドラえもんのような

行動ができるようになりたいな」と話を締め括りました。

しんと静まりかえったアリーナで、代表児童3名の言葉がそこに集った一人一人の心に染み渡っていくような、そんな2学期の最終日を迎えられることで、幸せな気持ちを全校で共有することができたように感じました。

佐々木雅子校長先生より終業式でのお話

皆さん、おはようございます。8月26日から始まった約4か月間の2学期、はとの子学習発表会をはじめとした数々の行事やプロジェクトに、附属小学校150年の、そして皆さんひとりひとりの集大成が映し出されていました。一生懸命に頑張ったこと、あきらめず努力したことが大きな喜びになりましたね。皆さんひとりひとり、先生たち、そして学校を支えてくれている皆さんひとりひとりに、ありがとうという感謝の気持ちで一杯です。



大きな行事で見せてくれた皆さんの頑張りの姿や活躍、それだけでなく、毎日の皆さんの姿をたくさん見ることもできた2学期でした。例えば、火曜日、クラスにお邪魔して給食を一緒にいただきました。6年A組から始まって1年A組まで、今学期はA組の皆さんと美味しく給食をいただきました。楽しそうに質問したり話してくれたり、牛乳やデザートやおかずのおかわりをジャンケンで決めて、喜んだりがっかりする姿を見て微笑ましく、とても楽しかったです。ふと、高学年と低学年では食器、器（うつわ）が違うということにも気付きました。

さて、「器」ということばは、お茶碗やお皿のような目に見える入れ物だけでなく、人の大きさも表すことばです。目に見える背の高さや体の重さではなく、目に見えない人としての幅や力量など、人物の大きさを指します。例えば、「総理大臣の器である」とか「社長の器ではない」というように使います。この人としての器、すなわち人としての土台は、人が伸びるとき、特に皆さんのような伸びる幅が大きい小学生の時期に、とても大事です。

メジャー史上初の「50本のホームラン、50回の盗塁」を達成したのは？そう、大谷翔平ですね。世界の翔平は、ゴミ拾いに象徴されるような威張らない謙虚さを持ち、いつも一生懸命です。このことが、前人未到の領域を更新してきたと思います。人としての器が大きいということなのかもしれません。

また、日本国内でいえば、史上最年少14歳2か月で将棋のプロとなったのは？そう、藤井聡太です。彼の将棋の研究パートナー永瀬拓矢が次のように語っているのを新聞で読

みました。「才能が水のような資源だとした時、器が見合っていないとあふれてしまう。あふれると人は変わってしまう。でも藤井さんは才能だけでなく器がすごいから変わらないんです」ここでいう「変わらない」とは、謙虚であるから吸収力があり、吸収力があるから仕上がることがない、ということです。すなわち、威張っている時間など持たず、謙虚に様々なことを吸収するため、成長に限界がない、終わりが無い、どんどん伸びていくということです。逆に、いくら生まれながらに素晴らしい才能をもっていても、人としての器が小さい、すなわち心が貧しいと、あまり伸びないということでしょう。

明日から20日間の冬休みが始まります。クリスマスやお正月、楽しいことがいっぱいありそうですね。ゆっくりした気持ちで、楽しい時間をたくさんとりましょう。家族や友達と楽しい時間を過ごすことはとても大切です。加えて、今お話しした「人としての器」も大きくすることにも時間を使ってほしいと思います。

具体的には、読書、本をじっくり読むことです。2年生の国語の教科書に出てくる『スイミー Swimmy』を英語から日本語に訳した、詩人の谷川俊太郎（たにかわしゅんたろう）さんが11月13日に亡くなってしまいました。『生きる』『朝のリレー』『へいわとせんそう』など多数の作品を残し、スヌーピーの出てくる『ピーナッツ Peanuts』という漫画も訳しています。谷川さんは「ことばの力」を信じていました。目に見える形で様々なものを見聞きする旅行と同じように、本を読むことで私たちは様々なものに出会うことができます。ただ出会うだけでなく、知ることにより考え、感じ、心を満たし豊かにしていくことができます。是非、自分の心という器を大きくしていき磨いていくために、「ことばの力」を持つ本を読んでください。探しているものにきっと出会えると思います。

最後に、健康第一、安全で楽しい冬休みになることを祈っています。ホワイトクリスマス、そしてよい年をお迎え下さい。1月14日にまた皆さんに会えることを楽しみにしています。

創立150周年記念プロジェクト後日譚

11月の記念行事で一段落を迎えた創立150周年記念事業ですが、取組をリードしてきた6年生の心には、学校の大きな節目にまだまだ頑張りたいという灯火が消えることはありません。

先日は、ABS秋田放送の「秋田大学ラジオレポート」という番組で、2回にわたり150周年記念プロジェクトについて取り上げていただきました。1回目は「記念ソング制作」2回目は「学校かくれんぼ」のプロジェクトで頑張っている6年生が出演し、取組についてインタビューを受けました。その模様はYouTubeでも紹介されていますので、下記URLもしくはQRコードから検索し、ご視聴ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=gmFWQFdXWx8> (1回目放送分)

<https://www.youtube.com/watch?v=ID2gxiPIpDM> (2回目放送分)

いずれの放送でも、そのアドリブ力の高さに「さすがはとの子」と感嘆させられてしまいました。「イチゴ栽培」のチームは、簡易ビニールハウスを作って苗を育てています。「映画」のチームは、式典で上映された作品に更に磨きをかけようと、10以上の項目にわたり修正点を明らかにして、撮り直す予定だそうです。学びを止めない子どもたちの活躍を、令和7年もご期待ください。

